JGNユーザの事例紹介(JGNX-A12024)

地方における先進的取り組みをサポート

南海トラフ大規模災害に備えた仮想化技術による地域間連携医療情報NW

研究実施機関

研究機関名：高知工科大学、岩手県立大学、
高知医療センター（予定）

実施期間（予定含む）

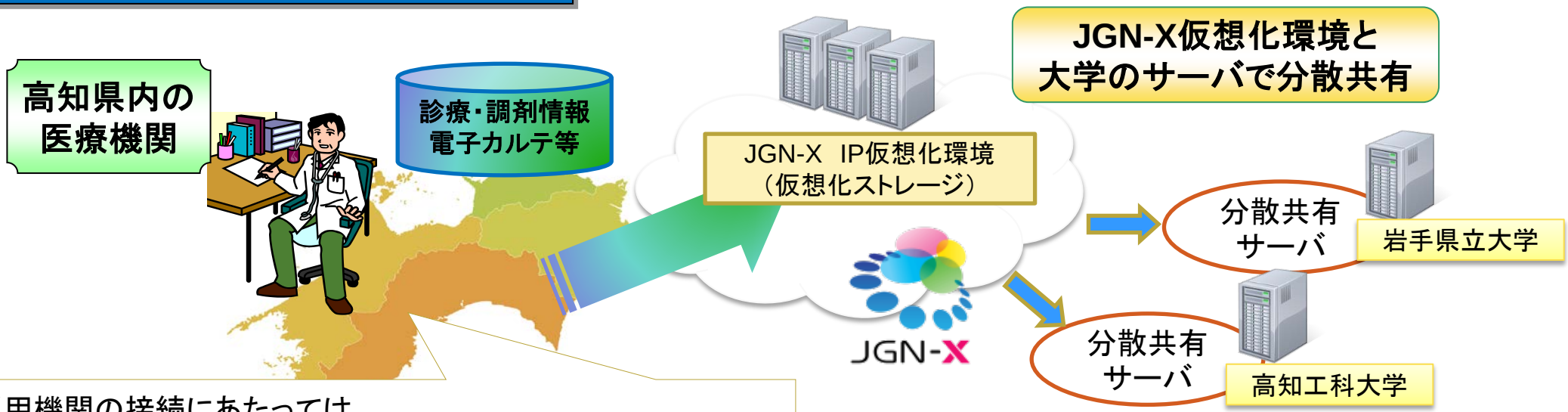
- 2012年度：IP仮想化環境の構築および評価
- 2013年度：情報分散共有の実証と評価
- 2014～2015年度：実証実験による評価

概要/成果（目標）

研究の概要：南海トラフで想定されている巨大地震などの広域大規模災害に備えて、平常時には医療機関からの電子カルテ、処方・調剤や患者本人からの服用履歴（おくすり情報BANK）などの医療情報を安全に広域に分散・共有し、大規模災害などが発生した非常時には衛星や無線、モバイル網も含めて動的に通信経路を再構成してアクセスできる仮想化サーバ上の医療情報の利用を可能にする。

成果・目標：おくすり情報などの必要な医療情報を被災地など制約のある環境でも確実に利用できるようにするため、**仮想化技術などを活用した地域間医療情報ネットワークシステムの研究開発**を行う。

テストベッドの活用シーン



利用機関の接続にあたっては
高知県情報ハイウェイ、高知学術情報ネットワーク
などを活用（**JGN-Xと地域のネットワークとの連携**）

実証実験を経て実用化へ